

文部科学省 リーディングDXスクール事業について

リーディングDXスクール事業とは、文部科学省が推進する教育DXに関連する事業の一つであり、GIGAスクールのソフトウェア環境とクラウド環境を活用し、児童生徒の情報活用能力の向上や校務DXを支援する事業です。この事業には、全国の約200校が指定校として参加しており、効果的な教育実践の創出・モデル校として、学校の教育活動におけるICTの「普段使い」を牽引・推進します（宮城県からも仙台市、岩沼市の小中学校や県内高等学校もいくつか指定校として参加しています。）。

また、生成AIの利用に関する暫定的なガイドラインに基づき、生成AIパイロット校を公募し、生成AIの教育への活用を検証する取組も行っています。

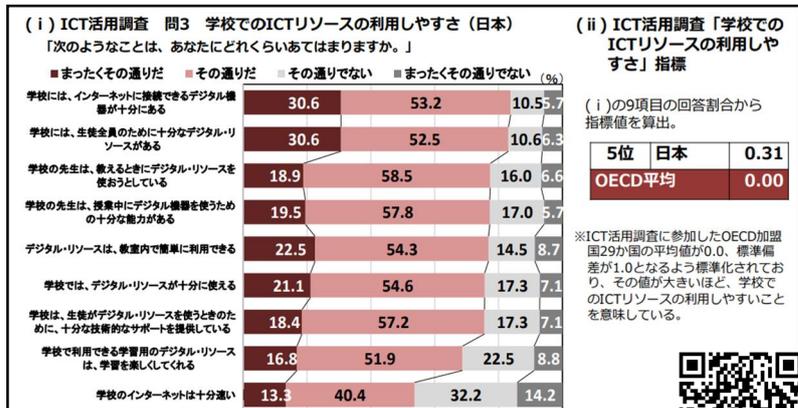
こちらのリーディングDXスクール事業の概要や活動内容、学校での端末の普段使いによる教育活動の推進については、文部科学省のポータルサイトや特別サイトに掲載されており、リーディングDXスクール事業の指定校や教育委員会の事例発表を視聴することもできます。地域や校種を超えて様々な取組を参考にし、学校での端末の「普段使い」による教育活動の更なる推進に役立ててみてはいかがでしょうか。



出典：文部科学省 リーディング DX スクール

OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA) の調査結果が公表されました

OECDは12月5日、義務教育終了段階（日本では高校1年生）の生徒を対象とした「国際学習到達度調査 (PISA2022)」の結果を公開しました。日本は、OECD37か国のうち、数学的リテラシーと科学的リテラシーの両方で第1位、読解力でも第2位となり、81の国・地域の全参加国における比較でも、数学的リテラシーは第5位、科学的リテラシーは第2位、読解力でも第3位という、世界でもトップレベルの結果を収めました。また、この調査では、デジタル機器の利用状況を調査するICT活用調査も行われました。日本では、高等学校における1人1台端末の環境整備が、令和4年度の1年生を対象に同4年度中に完了させる計画で進められており、そのような状況の中での調査となりましたが、「学校でのICTリソースの利用しやすさ」という項目でOECD平均を上回る結果となりました。



出典：国立教育政策研究所 OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2022)

事例紹介

With タブレを使った授業実践

宮城県農業高等学校 鈴木 寛之 先生

学校名 宮城県農業高等学校 教科、領域 農業（食品流通）

概要

・主な学習活動 OWith タブレの活用方法 ★With タブレを活用した結果

単元名「食品流通とプロジェクト学習」（6時間扱い）

【単元を通して】

食品流通とマーケティングについて、自ら設定した課題を解決するために、試行錯誤しながら調査したり、観察したりする学習活動に取り組みさせた。その際、With タブレを参考にしながら、学習を進めることを促した。

〈導入〉

・プロジェクト学習の進め方を確認した。

〈展開〉

・これまでの他教科も含めた様々な学習経験から、自分自身で「食品流通とマーケティングに関する学習課題（テーマ）」を設定し、学習計画を立てた（計画①）。その後、With タブレを参考にしながら、計画①を見直し、学習計画を完成させた（計画②）。

・完成した学習計画に沿って、調査したり、観察したりしながら、記録を残した（夏休みの課題とした）。

○計画①の作成では、With タブレは活用せずに、進めた。計画②の作成時に With タブレを紹介し、各学習活動のページを参考にし、学習計画を完成させた。

★生徒は With タブレや教員の助言を基に、課題を明確にしたり、整理・分析の方法を具体的に考えたりすることができた（表）。

表 学習計画を見直す前と後の課題（テーマ）の例

見直し前	見直し後
食品の安全性について	食品添加物を多く使用している食品の安全性について

〈まとめ〉

・今回は、様式やページ数は指定せずに、A4 用紙に自由にまとめた。

○With タブレ「まとめ・表現」や「Google Workspace」の各ページを参考にし、これまでの記録や分析したことをまとめた。

★レポート用紙に手書きでまとめを作成し、提出する生徒が多かった。Google スライドを活用してまとめた生徒は、A4 用紙に1ページ当たり2枚のスライドを設定して提出した。



使用機材 生徒の端末:iPad
ソフトウェア Google ドライブ、Google Classroom

県内の先生方へ 今回の実践をした結果、生徒が得意な学習活動、苦手な学習活動が分かりました。分析（考察）することが苦手な生徒が多かったことから、実践後は、グラフやデータの読み取りを行い、理由や根拠を調べる学習活動を取り入れました。その際に、With タブレ「思考ツール」を活用して、自分の考えを整理・分析し、相手に伝える活動を取り入れました。このような学習活動を取り入れることで、生徒たちは探究的な学習の進め方の理解が深まっていくと思います。

編集後記

Mナビ新聞-情報教育通信-第23号はいかがだったでしょうか。今回は、文部科学省が推進するリーディングDXスクール事業と生徒の学習到達度調査（PISA）の調査結果をメインにお伝えしました。

Mナビ新聞では、皆様からのご感想・ご意見・ご要望を募集しております。右記の二次元コードからフォームに記入していただけると幸いです。次号もお楽しみに！（第23号担当：三浦）

